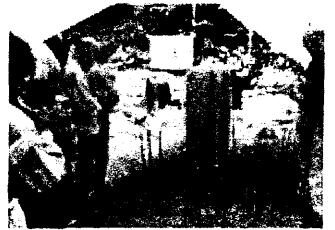


大塚武元支部長追悼・神威岳登山

日高山脈・神威岳で遭難された大塚武元支部長さんの没後20年追悼集会と登山が、7月12日(土)、13(日)に行なわれました。

集会と登山には、ご子息の大塚謙一さんを始め遠く北九州、神戸、奈良からも参加され、総勢34名となりました。また、神威山荘前で行なった慰霊式には北洋銀行静内支店長も出席いただきました。

慰霊式では、新妻徹支部長の挨拶の後、ネパール帽(?)にポンチョ姿の高澤光雄副支部長が読経、参加者の焼香を行なって、献杯は吉村健児会友(前北九州支部長)の音頭で始まり、遺影を囲み畠山廻子会員らの手作りの豚汁などで遅くまで懇談が続きしました。



翌朝、山頂組、慰霊碑参拝組の2班に別れ、漆崎隆総リーダーの合図で、午前4時45分小屋を出発。すぐ入渓したが、ニシュオマナイ川は、2~3日前の雨の影響もなく、濁りもなく水量も少なく助かりました。

遡行には、沢初心者が数名居たため、極力川歩きを避け、巻けるところは巻いて前進。流木の山になっている下二股の左を進んだところで、最後尾の久保田優一会員が、右岸岩壁に埋め込まれたレリーフを発見。大塚謙一さんを中心に登山組全員が集まって黙祷を捧げ記念写真を撮影した。



この頃から、霧雨が強く降り出してきて、ここで引き返すという会員もいたが、取り敢えず尾根に取り付く上二股まで進むこととした。午前7時10分上二股着。ここで漆崎総リーダーと鈴木和夫班長らが相談し、山頂組と下山組に再編成して、大塚謙一さん、関西支部の阪下幸一会友など17名が山頂を目指し、7名がこれを見送って慎重に下山を開始しました。

下二股では、小雨の中を新妻徹支部長らが祭壇を作って待っていてくれました。下山組一同改めて黙祷を捧げ、下り始めて間もなく中村喜吉総括隊長と畠山廻子会員が登ってきたのに出会いました。

このころから小雨はガスに変わり気温がどんどん下がってきました。小屋では山頂組の帰るまで、浅利欣吉、赤石喜恵子さんがストーブを炊いて小屋を暖めておりました。

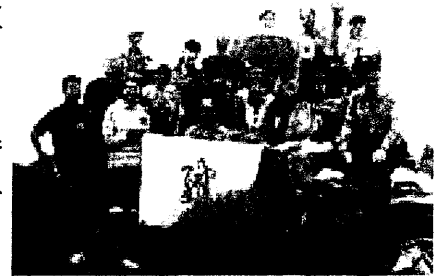
午後3時、山頂組が雨に打たれながら小屋に到着したのを待って、小屋の前にしつらえた祭壇の前で、長谷川雄助事務局長の司会で解散式を行ないました。支部長挨拶の後、大塚謙一さんのお礼の言葉、北九州、関西各支部の皆さんの挨拶があって、祭壇に供えた花をみんなで川に流し、追悼集会を終えました。(以上、鈴木和夫報告)

山頂組からの報告です。

上二股で、下山組の皆さんに見送られて、雨の強くなる中、助田陽一会員を先頭に尾根の取り付きに到着。そこで各自登山靴に履き替えていよいよ急登にかかる。両手で濡れた笹をつかみながら一歩一歩登る。霧雨も高度を上げるに従って止み、頂上からの眺望も期待された。

10時40分頂上に立つ。無風状態で暖かい。上空は、神威岳の上だけが青空が覗き、周囲の山々はガスで全く見えない。一瞬、ソエマツ方面のガスが切れ、尾根の姿を見たのみである。長谷川事務局長が担ぎ上げたビールで大塚元支部長を偲んで献杯。各自で昼食をとりながら、見えない山座同定をする。記念写真撮影の後、11時20分下山開始。

下るに従って、天候は再び雨模様となる。水量も増してきたので、慎重に渡渉を繰り返し、15時30分小屋の前の丸木橋の手前で北守清会員らの出迎えを受け、心が温まる。笹の中を漕ぎ、全身びしょぬれで小屋に到着。仲間の炊いてくれた小屋の暖かいストーブが何よりであった。(以上、漆崎隆報告)



ネパールのポカラで頑張っている安藤久男氏をサポートしよう!

ポカラに建設中の「国際山岳博物館」のオープンは来春2月です。そのためにJAC北海道支部の安藤久男氏は、たった一人で準備に忙殺されています。ボランティアとしてポカラに一週間ぐらい滞在中で、安藤氏の仕事のお手伝いをしませんか…。11月中旬~下旬の予定です。

詳細は新妻 徹まで (TEL・FAX 011-511-9130)